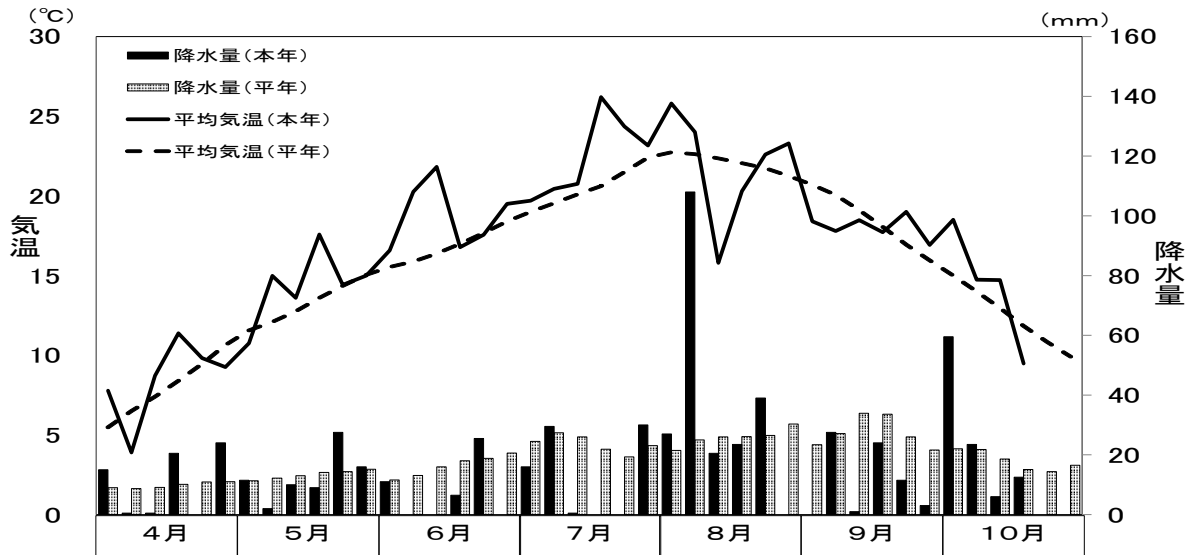


上北農業生産情報 第7号

令和3年10月22日
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

作業を終えた農業機械のメンテナンスを行い格納しましょう!!

気象



半旬別平均気温・降水量の推移 (十和田アメダス)

《9月》

- ・平均気温は、上旬・中旬は平年を下回り、下旬は平年を上回った。
- ・日照時間は、期間を通して平年を上回った。
- ・降水量は、期間を通して平年を下回った。

【9月の気象 (十和田アメダス)】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	18.1	20.4	23.3	25.2	13.5	16.3	56.7	44.1	27.5	50.5
中旬	18.1	18.6	23.3	23.7	13.3	14.0	61.1	46.4	25.0	67.5
下旬	18.0	16.5	24.0	21.8	12.3	11.4	58.0	48.5	14.5	47.6

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

《10月上旬・中旬》

- ・平均気温は、上旬は平年を上回り、中旬は平年を下回った。
- ・日照時間、降水量は、上旬は平年を上回り、中旬は平年を下回った。

【10月上旬・中旬の気象 (十和田アメダス)】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	16.6	14.5	21.6	20.0	11.4	9.3	50.7	47.0	83.0	43.8
中旬	12.1	12.4	16.8	18.2	7.6	6.8	19.5	52.2	18.5	33.7

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報(10月23日から11月22日までの天候見通し)

令和3年10月21日 仙台管区气象台発表

- 東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 寒気の影響を受けにくく、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる可能性があります
- 東北太平洋側の向こう1か月の降水量・日照時間はほぼ平年並みの見込みです。

水 稲

《作況・作業進捗状況》

- 1 東北農政局が公表した9月25日現在の作柄概況は、「南部・下北地帯」は「101」の「平年並み」となっている。
- 2 管内の刈取最盛期(50%進ちょく)は平年より8日早い9月29日で、刈取終わり(95%進ちょく)は平年より4日早い10月12日であった。

《今後1か月間の主な作業》

稲わらは、家畜の飼料や堆肥等に有効活用する。なお、秋にすき込む場合は、地温が低くなると腐熟が遅れるのでできるだけ早めに行う。

大 豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの成熟期は、平年より5日早い10月12日であった。
- 2 成熟期の生育は、分枝数は平年を上回り、稔実莢数は平年を下回っている。
- 3 マメシンクイガの被害が散見される。

【生育観測ほの生育状況(品種:おおすず)】

調査地	年次	成熟期 (月/日)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/株)
十和田市切田	本年	10/12	4.6	34.0
	平年	10/17	3.1	39.7
	前年	10/19	3.0	38.8

注) 平年値は平成13年～令和2年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 収穫が遅れるとしわ粒や紫斑病などの被害粒が増加し、収量や品質が低下するため、適期に収穫する。
※ コンバインによる収穫適期は、成熟期から数日間立毛状態のまま乾燥させ、茎水分50%以下、子実水分20%以下になった時期。
- 2 収穫作業は、朝露などが乾いてから行う。
- 3 汚損粒発生を防止するため、以下の点に留意する。
ア 雑草や青立ち株は、茎汁による汚損の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
イ コンバイン収穫では、土のかみ込みによる汚損を避けるため、無理に地際部まで刈り取らない。

小麦

《生育状況》

- 1 は種作業は9月21日頃から始まった。
- 2 出芽揃いは良好で湿害などの発生はなく、生育は順調である。

《今後1か月の主な作業》

- 1 耐倒伏性の向上や凍霜害を防ぐため、11月中旬までにローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田などの排水の悪いほ場は、生育が阻害されるので行わない。
- 2 雪腐病の薬剤散布は、11月中旬から下旬を目安に行う。なお、散布後に一度積もった雪が溶けても再散布の必要はない。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほの10月11日現在の生育は、いも長、いも重はほぼ平年並みであるが、いも茎は平年を下回っている。
- 2 葉渋病、炭そ病の発生により、茎葉の一部が枯れ上がっているほ場が見られる。

【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	10月11日現在		
			いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (cm)
東北町野田頭	本年	5/12	67.8	971	5.2
	平年	5/14	70.0	997	5.7
	前年	5/14	72.3	876	5.6

注) 平年値は平成20年～令和2年の平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから収穫する。
- 2 雨天など過失なほ場条件での収穫作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。
- 3 ながいもネットは野焼きせず、JA等による回収処理に出すか又は直接産業廃棄物処理業者へ搬入する等適正に処理する。

にんにく

《生育状況》

植付けが早いほ場では、本葉2～3枚程度となっている。

《今後1か月の主な作業》

- 1 萌芽が揃ったら、芽出し作業を行う。
- 2 ウィルスの秋期感染防止のため、アブラムシ等の防除を行う。また、罹病株は新たな感染源となるため抜き取る(特に種子生産ほ場)。
- 3 降雨時の排水対策として明きよの設置を行う。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 生育は、例年並みの茎の太さを確保しており、概ね順調である。
- 2 病害は、さび病及び葉枯病が発生しているほか、ネギアザミウマの被害が散見される。

《今後1か月間の主な作業》

葉鞘の軟白状況（軟白30cm以上）を確認し、収穫する。

秋だいこん

《生育状況》

- 1 生育観測ほの10月11日現在の生育は、は種後の天候不良により葉長、葉数、根重とも平年を下回っており、根部の肥大にばらつきが見られる。
- 2 目立った病害虫の発生は見られない。

【生育観測ほの生育状況（品種：夏の翼）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	10月11日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町野田頭	本年	8/ 7	38.5	16.8	620
	平年	8/ 7	43.4	21.6	947
	前年	8/ 5	42.7	25.4	1,021

注) 平年値は平成13年～令和2年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

収穫適期は品種や作型によって異なるが、秋だいこんは、は種後55～60日位が収穫の目安となる。ほ場ごとに試し掘りを行い、1本当たり重量が1～1.2kgを目安に収穫する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の10月11日現在における果実肥大（横径）は前年を下回っている。

【生育観測ほの生育状況（品種：ふじ）】

調査地	10月11日現在の果実肥大(横径)		
	本年(cm)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	8.0	8.7	92

- 2 黒石市（りんご研究所）の10月11日現在における果実肥大（横径）は8.7cmで、平年比100%、前年比99%となっている。

（参考：五戸町（りんご研究所県南果樹部）の10月1日現在における果実肥大（横径）は8.4cmで、平年比99%、前年比101%。）

《今後1か月の主な作業》

1 晩生種の収穫

ア ふじの平年の収穫始めは、黒石市（りんご研究所）で有袋栽培が10月30日、無袋栽培が11月4日頃となっているが、10月7日現在の熟度は平年より3日程度進んでいると見込まれる。自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせてから収穫する。

また、収穫が遅すぎると貯蔵中の内部褐変が心配されるので、11月15日までに収穫を終えるようにする。

イ ふじ以外の晩生種も適期収穫に努める。

2 風害防止対策

強風に備え、防風網の点検・補修など風害防止対策をしっかりと行う。

牧 草

《今後1か月の主な作業》

堆肥や土壌改良資材を散布して土づくりに努める。

飼料用とうもろこし

《作柄状況》

生育観測ほの収量は、乾物収量、TDN収量とも平年をやや上回った。

【生育観測ほの作柄状況（品種：パイオニア115日）】

調査地	年次	刈取月日 (月/日)	熟 期	生草収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)	TDN収量 (kg/10a)
東北町北栄	本年	9/28	黄熟中期	5,804	1,947	1,341
	平年	9/25	—	5,873	1,881	1,307
	前年	9/17	糊熟後期	5,428	1,585	1,132

注) 平年値は、は種しなおした平成24年を除く平成22年～令和2年の平均値